



秘傳書

九刀と見ゆをいひの事わきまにひきおれりき
とくいなまをいひは監督者の六職といひて
あつやまといひと見ゆまといひの付下人者
地ぬのいそきせはのりけりらりもてい
いし地と見ゆ事なまといひ大方おとて
いひいし事おわいし地といひもまのい
いしと見ゆ事と見ゆといひといひもま
すらうこれか地のさきと見ゆら一は二おわ
まといひといひといひの地といひもま
けいし物おれいし一地といひもま
しるすを肝要なり

目錄

一 刀の上中下之字 一 地之極目極目之事
刀之まじりとまじり事

一 口元物 一 口元物 一 口元物 一 口元物

大方刀の國了とまじり事

一 京 一 大和 一 關 一 德余

一 德前 一 德後 一 德中 一 德者

一 德者

一 德者 一 德者 一 德者

宗道 一 吉家 一 國行 一 來國後

來國光 一 來國次 一 二子國後 一 光包

了戒 九 信國 十

同粟田口之分

藤林 十一 國吉 十二 久國 十三 吉光 十四

國總 十五 進藤 十六

鎌倉物一流

約光 十七 正宗 十八 貞宗 十九 義弘 二十

則重 二十一 廣光 二十二 秋廣 二十三 左 二十四

長谷部 二十五 長義 二十六 魚光 二十七 九重 二十八

龜氏 二十九

大和物之分

富麻 三十 則長 三十一 包永 三十二 保昌 三十三

牛平院 五五 龜吉 五五

依前物之分

友成 五五 包平 五七 助包三人 五八 正恒三人 五九

國宗 四一 守家 四二 雲次 四三 光忠 四四

長元 四四 真長 四五 景光 四六 則宗 四七

助宗 四八 吉平 四九 助房 五〇 吉房 五一

助真 五十二 景秀 五三

依中物

家次 五七 青江 五九

依後物

三魚 五十六

豐後物

約平 五七 正恒 五八 延秀 五九

伯耆物

真守 六〇 法成寺 六一

、刀の地及び、刀の上中下と云ふ事

一上地ハ 又白く地多わ成

一中地ハ 又善く地多く成

一下地ハ 又悪く地多く成

赤上地ハ 何れも白く成るひ乃成

赤事一切わ成るは組地成る上地内

之作成りし少く成る高と成る一と成る

お美のうれあしらの度きまのいぬきあつめ
山いづるあつめいづるあつめいづるあつめ
傳はる

一編余初一流の事刀殿うのすうの行はる
ひあよあうすあよあうすあうすあうす
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
うの中うの中うの中うの中うの中うの中
しんきい殿さうのそらさうのそらさうのそら
の切先ははる物なりきさうの切先ははる
はるははるはるはるはるはるはるはるはる
そのもちうさうさうさうさうさうさうさう

取はるあつめいづるあつめいづるあつめ
一すうの肉あは大中うのいづるあつめ
くさうさうさうさうさうさうさうさう
いづるあつめいづるあつめいづるあつめ
但はるあつめいづるあつめいづるあつめ
自はるあつめいづるあつめいづるあつめ
す板同あつめいづるあつめいづるあつめ
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさう
あつめいづるあつめいづるあつめいづる
あつめいづるあつめいづるあつめいづる
あつめいづるあつめいづるあつめいづる

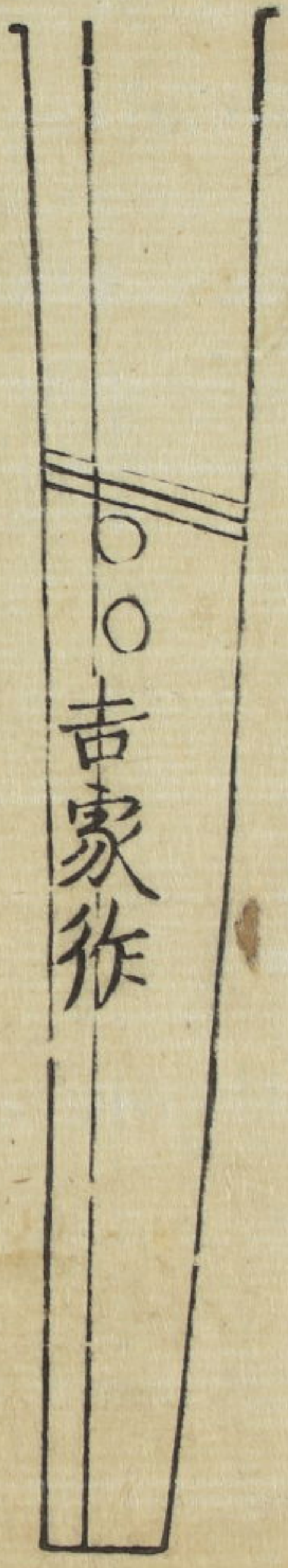
記より外はあまはるしむ事と地も出さる地
 本し指のふあふのてしきいふたふた
 白旗村とて二の地のさうりあふとてさうり
 とてさうり同し後の地とてさうり
 なる分はあふとてさうり
 けりも他者よふと村よふとてさうり
 らひもあふとてさうり
 住西張もあふとてさうり
 ぬらうとてさうり
 他はのふとてさうり
 くの夜目指月右よとてさうり

京物之分

一 京道 三条住 此他刀の妙ひの門上他とてさうり
 来や地指自文をさうり
 みさうり
 まやうり
 ぬとさうり
 とあふ

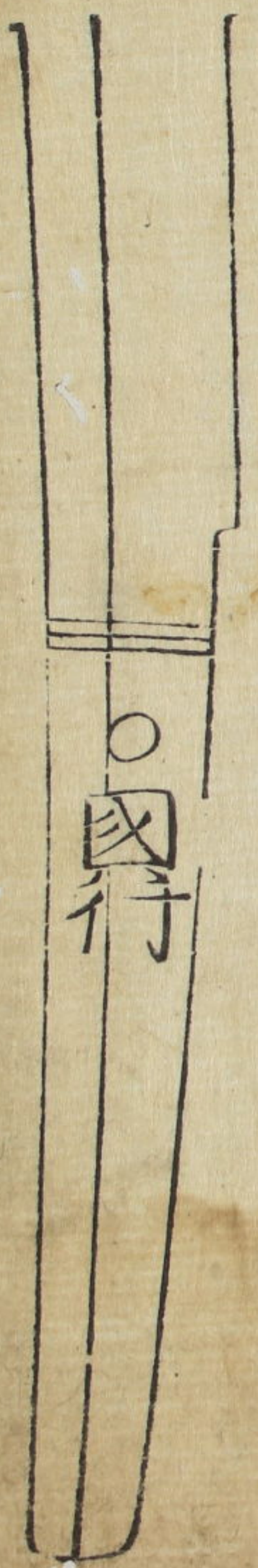
○ 宗近作

吉家 東進子
 此他の刀の妙くは方版打作一葉
 地へは曲やふ地文多く女太助ひろましくおかの
 太は是と入く焼丹之板作此他丹はらりおのうといふ
 くのは皮文と物も多しかりのあき中か
 又此他丹と作ひくおく焼丹はましくの焼の四り
 へけ焼とまはなむ



一 國行 此他の葉本根地へは曲やふ地文多く
 女太助ひろましくおかの

甲下おお堂へくおをふれき高しおのへふれや
 此へおれ焼もわらぬのうらりわらりおのうらり
 うよおえく切えのうらりおのうらりおのうらり
 此へおれおのうらりおのうらりおのうらり
 のうらりおのうらりおのうらりおのうらり
 くすおの國行の足おたりおのうらりおのうらり
 又此他来太助くといふも本のまのうらりおのうらり
 おのうらりおのうらり



一 東國後は他国を極地くし海をふ地を抄ふ
 然るにわさしぬきせやふ白く大略ひるさしぬき
 ぬえわさや、かり他力よさぬの、しよ山是入抄ふ
 然、のあふ、何れもくさし抄めく、いりてらん
 さや、かり、照く、いぬらふとらんふ繞あふ、
 しよ、いし、つ、あひあくぬえすれ、とす、らん
 又太刀、い、毛も大略ひの繞ふじ、あふ、く、け、い、あ
 くぬ、い、あ、い、す、く、さ、抄、清、く、紫、氣、流、さ、き
 ふ、あ、い、あ、り

東國後

右のあ、く、東のま、行、も、抄、さ、く、中、と、あ、ふ、い、ふ、さ、き
 わ、ら、い

東國後 國後よは他子服くしともよすぬき、い、
 本、所、の、大、方、父、一、同、意、な、り、は、ま、地、を、抄、じ、く、あ、り、て
 と、い、つ、ら、あ、ふ、ま、は、他、の、な、い、ひ、た、ら、を、祖、出、す、本、の、の
 け、地、し、く、か、く、い、海、や、れ、の、同、じ、し、も、國、後、り
 も、ま、の、い、ぬ、い、ひ、ら、ら、い、も、あ、く、親、子、の、り、る、然
 る、ら、い、も、者、く、又、乳、ぬ、の、ら、大、略、國、行、の、風、俗、に、て
 ぬ、あ、ら、い、ら、い、ら、い、ら、い、一、繞、ら、お、あ、る、一、い、り、ま、さ、き
 ぬ、え、わ、さ、や、あ、い、あ、り、い、ら、い、の、さ、ら、ぬ、あ、ら、い、ら、い、も
 し、い、ら、い、い、ら、い、ら、い、の、い、ら、い、ら、い、ら、い、い、ら、い、

○未國光

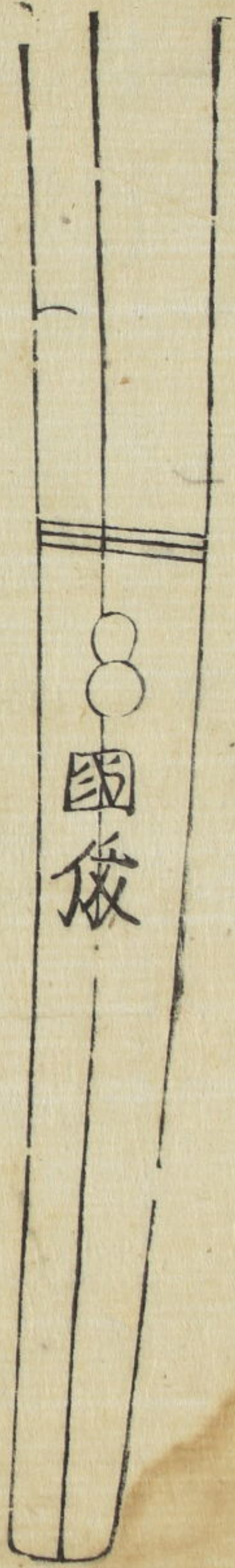
は他の未のまの行の中とサるる物さの口はき

一 未國次 は他のまの行の中とサるる物さの口はき
 他々のまのまの行の中とサるる物さの口はき
 出た極地とて行も京物の極目なれどもは他のまの
 事より一はるの極目よきこと地もよくはるや
 てぬの大略ひらきくふのまのまの行の中とサるる物さの口はき
 のまのまの行の中とサるる物さの口はき
 きんぬのまのまの行の中とサるる物さの口はき
 焼物なりぬの地ぬのまのまの行の中とサるる物さの口はき
 記とらえ刀服さのまのまの行の中とサるる物さの口はき
 お遠すのまのまの行の中とサるる物さの口はき

○未國次

一 二字國後 は出た極地とて行も京物の極目なれどもは他のまの
 まのまの行の中とサるる物さの口はき
 出た極地とて行も京物の極目なれどもは他のまの
 事より一はるの極目よきこと地もよくはるや
 てぬの大略ひらきくふのまのまの行の中とサるる物さの口はき
 のまのまの行の中とサるる物さの口はき
 きんぬのまのまの行の中とサるる物さの口はき
 焼物なりぬの地ぬのまのまの行の中とサるる物さの口はき
 記とらえ刀服さのまのまの行の中とサるる物さの口はき
 お遠すのまのまの行の中とサるる物さの口はき

て妙座のよきもの物をも並ぶ刀のいふいふ
みよひの焼くものもいふよきものいふよきもの
のいふいふもの物もいふよきものいふよきもの
いふよきものいふよきもの



一光包 國後オホ 此他脇刀のよきもの出来極大方来國
後の民情の地は國後にも善くそよよきもの
て一かゝる海やうなものと記やうな白くひろく
あして敷のふ粟田口物のあつていふよきもの

わう一かゝる海やうなものと記やうな白くひろく
一極為善くよきものそよよきもの但海前よき
長光の身子の町にいらる地よきもの此は景光
かゝるものいふよきもの善くわうよきもの
よきもの光包と云ふなりかきれなり



一了戒 國後オホ 此他のも出来極是も國後よきもの
よきもの地よきもの善くわうよきもの
あつていふよきもの國後よきもの

もあつていふ事もあるが、いふ所の物も同流である
戒の禁を大略に申すも、禁もあつていふ事もあるが、
ても、其のいふ事もあるが、いふ所の物も同流である
といふ事もあるが、いふ所の物も同流である

〇了戒

一 信團 三代有は他の刀脇のいふ事もあるが、いふ所の物も同流である
信團三代有は他の刀脇のいふ事もあるが、いふ所の物も同流である
信團三代有は他の刀脇のいふ事もあるが、いふ所の物も同流である

いふ事もあるが、いふ所の物も同流である
いふ事もあるが、いふ所の物も同流である
いふ事もあるが、いふ所の物も同流である
いふ事もあるが、いふ所の物も同流である
いふ事もあるが、いふ所の物も同流である
いふ事もあるが、いふ所の物も同流である
いふ事もあるが、いふ所の物も同流である
いふ事もあるが、いふ所の物も同流である
いふ事もあるが、いふ所の物も同流である
いふ事もあるが、いふ所の物も同流である

信團 信團

〇 信團

○久田

一吉光 脇指のすゝりも尋常の如く
をひのちのちと松岡の如く
板目とは別は是れ大なるものあり口傳あり
純よりの板目の松岡の如く
のいよりのものありはやうな地
志保の如く地やうな地なり
黄丁の如く地やうな地なり
いよりのものありはやうな地

くわがさくさくはく焼たのりし乃新
らさくらのものありはやうな地
あもよりのものありはやうな地
なり中のものありはやうな地
とよおきあひのちのちと松岡の如く
糸のちのちのちのちのちのちのち
うのちのちのちのちのちのちのち

○吉光

○吉光

右の如くすゝりも尋常の如く

貞吉 吉貞 真行 才く乃 柴木も大 畷安土 正
同前 才わ 但 ぬらひ びよ 白ひすく なく 地く とも 正
つく 況 才よ 才く なく なく なく なく 同 國 弘 才よ
才く 大 ぬらひ の ぬらひ ぬらひ ぬらひ ぬらひ ぬらひ ぬらひ
大 びよ 才く なく なく なく なく なく なく なく なく
ぬらひ 才く 左 一類 の 肉 才く なく なく なく なく なく

抄 規 則 住 源 左

筑 物 住

○ 左

右 之 外 左 一類 の 中 心 とも あり ても 大方 同 亦 也
但 吉 貞 乃 中 心 の びよ 才く なく なく なく なく なく なく
有 才く なく なく なく なく なく なく なく なく

一 長 谷 部 國 重 才く なく なく なく なく なく なく なく なく
才く なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく
國 信 才く なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく
ぬらひ 才く なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく
貞 宗 才く なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく
才く なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく
才く なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく
國 信 才く なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく
才く なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく なく

よのてす入るまうとてよのてすは他方とてよの
たきかゝるすへるひまねなる

○長谷部國重

○長谷部國信

い他天王寺をておへ高野抄別任國重と抄ある
二字流いゆれなり

長谷教 是他出久極地とて高やうの地文すして
まゝくぬきまねなるとして又大略大のふんせ
よと又あるとて左文字よ他は但たしりも
うとてしてまゝく又も大らやうおしてなりし

まゝく地文とてまゝく極地とてまゝく

○繪巻舟長義

流の舟極右のまゝくゆりひつうとて大
助と流よ折るり但流りてうらゝるる自然と流
とて可なりとてゆりなり

通光 是他の方のまゝくは通光とて流の内まゝ
か大切をふしてまの流のまゝくはまゝく
ゆり流りまゝくのまゝくはまゝくはまゝく
まゝく極地まゝかたゝとてまゝくはまゝく

舟のこゝろよむじらうくと白みたるめしつゝあは
 べ池の見おろり但きけはとくいたし又母さつひし
 ゆわひのらまて大蛇のつれ乳よ思はらむか
 くらま境なりひろすく又もきみ一服うへは
 大のこゝろぬらりて家宗す子よおこつららむ景光
 の又の風掃よ由乳ゆで池こゝろらりた口あ
 物をかり又び池うへ梅りん一わらうらりて
 きこ切す海多し一切物のすくさん海念ふ
 此母くまし一かりわさ一但梅并初の内光
 かり

兪川長船無光

〇兪川長船無光

右のこゝろ何も長船よ折二字添ふ不審さへ一
 らる年号のけしを折なり又兼とらむさみ下
 と少人よ折意めひまらんらと下と折らるゝ
 開のこゝろわ

一元重 び池乃其本極地とくこ海やうよ地多妙言
 く又天鷲大のこゝろよ妙さるわ一八と乳のさ
 一又ひろすく又もわつと大さうり服うへ
 此外其本も魚光とけし物さるは池のこゝろ

く成りて... 右よありて... 左よありて... 中よありて...



大和物之分

一 當麻... 地文... ちきり... けの... けの... けの...

けの... けの... けの... けの... けの... けの... けの... けの... けの... けの...



○當麻

一則長 三代有 じ他の出米地たるこもやふ地
 美多くぬ刀矢略ゆふれよわしとさうらう道
 総のぬれ地たる但すくぬもわす又あうり
 ぬきのすくぬのうらふもわす一太略並
 ぬきりらわすすくぬよ出米の當麻よたう
 みさう地をり総よよりじ他の出米物の當麻
 中らふこ又當麻のふきぬらうの則長とゆふ
 物さり但し他の地さす少とより地よさうなく美
 を當麻よりわすやうよ一龍ものぬら
 もぬきりらわすはぬえぬやうぬのひらうさ
 著大わし一同中らふの新も當麻よ夫方同意
 但中らふさ少とよりうらふちり又流乃打ヤウ
 之三代大和則長とサ三代同大和國則長と
 あり

大和の則長作

則長 則長作

包永 じ他刀のさうさぬきりや。中ら
 じのぬらりすれさうし他の刀のさうさ
 ぬきり他の地よゆすな一ぬれ地たるさ
 もぬやうぬえぬさうさぬ當麻のさ
 みさうり但當麻より少とよりぬらうさ

なす行もさしはしうしつし境はのくつこ
か保昌立身一類行も此界同く中よ
と貞の地さくもさしはしうしつし境はのくつこ
くよさなり



一千平院重弘 此の地界地さしつし
の心あるさく大略さしはしうしつし境
からしはしうしつし境はのくつこ
さくさくさくさくさくさくさくさく
の地界地さくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさく

サのさしはしうしつし境はのくつこ
又さくさくさくさくさくさくさく
二重又さくさくさくさくさくさく
のさくさくさくさくさくさくさく
しはしうしつし境はのくつこ
の地界地さくさくさくさくさく
打しはしうしつし境はのくつこ
旭さくさくさくさくさくさくさく
よ平院乃一平院乃一平院乃一平院
く地界地さくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさく

和物と見くしてなすやも他乃お家敷ふりひ千
平院物と見居りなすひなせ

千平院

千平院

千平院行信

善吉 是千平院のふりなすやも
限さつりし地さつりし行も大方同
兼さつりし大略中さつりし又妙みされし
もあつりし者あつりし妙地又え
とやよもなすやもつりし関とさつりし地
長行もあつりし物さつりし地さつりし大
和物と見え妙木齋さつりし古家さつりし
口傳さつりし又二代目ハ横ぬさつりし自然みされ
千平院さつりしやも



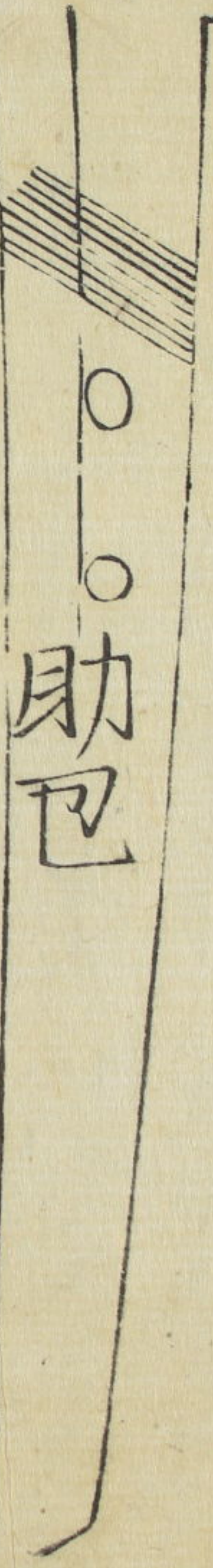
後并物之分

一交成 け地よあつりしひりけりし
柴木地さつりし妙さつりし地又さつりし
妙さつりし大略のさつりし妙
ひりけりし妙さつりし妙さつりし妙

一同二字銘之助包

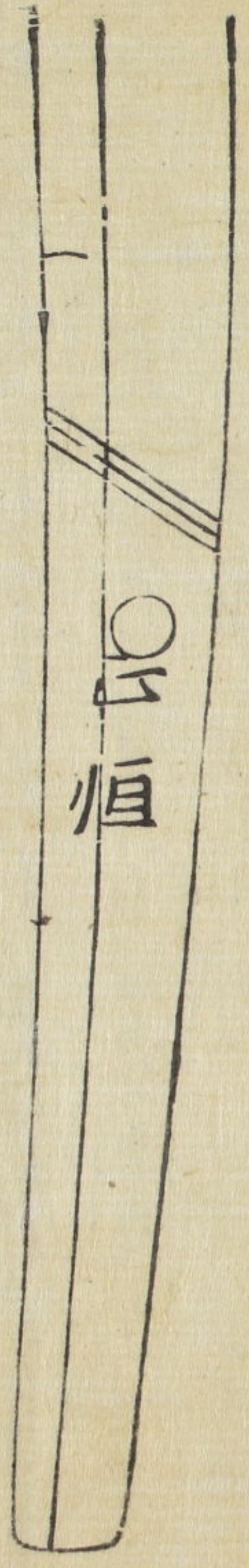
是の後名辨院清平一文子也

梨本指地は、この海やふれ白片を添ふあると又
大略のこゝれをいふ見ゆる片をも但名流の助包
が、黄のこのこをいふ外、大流の助包一人
ありと是の時代も後をり梨本もどりあり



正恒 一条院清平 此地の梨本指地は、この海や
そは正恒ももかふくろふもて又り
白くわいさういそふ湯く一里あり

のを見たりも同子の恒次の梨本もたふの父と同
意たり但し物のおくなり
こゝれ又ありとい他の見所より右親子の流
海中には有る梨本わくといりあり



同景より正恒 是の後名辨院清平
指地は、この海やふれ白片を添ふあると又
大略のこゝれをいふ見ゆる片をも但名流の助包
が、黄のこのこをいふ外、大流の助包一人
ありと是の時代も後をり梨本もどりあり

けあき〜御中の心恒同化と一洗有

日三恒

一信房は他を承継地と〜海やふ地を多く
りふも白く煮多く〜大略のふれ礼よ〜
とせ〜焼がら但あつと大乱がら〜
い他父子一代と〜其房めい後房めいお
なり

一國宗 海前 信房の承継地と〜こまや
地又ましくぬ大略大乱がら但あ〜とお礼あり
ら〜と〜ぬの妙の〜極よ焼もあつ〜
の〜ら〜あ〜あ〜〜
り〜妙守ふ〜い他〜
其承継地のぬら〜
〜〜物るもの親子ふあり物一切あ〜

困宗

日三恒

一守家 此地の紫蘇地又きくこ梅やう
 て少くはわううきり此地の見玉れり又
 うひのりゆりひうく大略下子又とまて
 大らこれ焼なり此地より田と焼く
 又湯うりゆり有る多し大方又の風情
 一の地の神光忠のこ地ゆり地こり一文
 字まこのの持るゆりゆり守家
 一一同二代目の守家の紫蘇のゆりゆり
 少くはわううきり此地の見玉れり又
 うひのりゆりひうく大略下子又とまて
 大らこれ焼なり此地より田と焼く
 又湯うりゆり有る多し大方又の風情
 一の地の神光忠のこ地ゆり地こり一文
 字まこのの持るゆりゆり守家

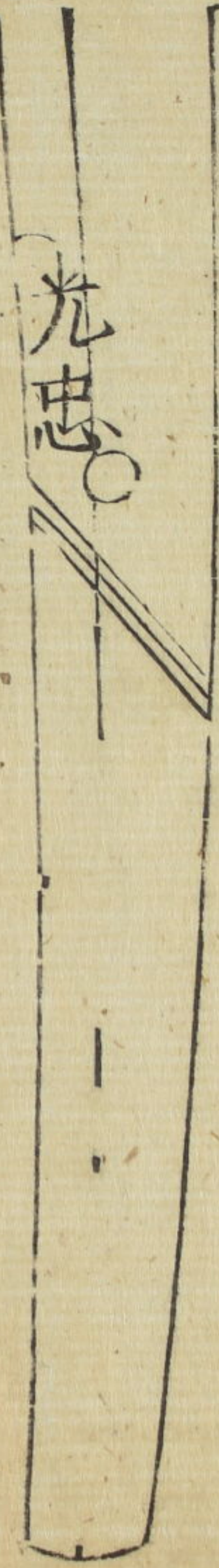
守家造

守家造

一 同真守 守家子 此地の紫蘇地
 下子又の
 地行も大の守家は同前
 地ゆりゆりひうく大略下子又とまて
 大らこれ焼なり此地より田と焼く
 又湯うりゆり有る多し大方又の風情
 一の地の神光忠のこ地ゆり地こり一文
 字まこのの持るゆりゆり守家

真守走

てもい地の...
 焼るも多し...
 地奴の...
 志る...
 急筋...
 玉又...
 二十...



光忠の

長光 此地の...
 他多...
 も...
 かり...
 東物...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

ひ介一文字の教わすて多ししとて大略も
極同前されいりんくおまゝのりするも中
上他とていすいりてはくお物

泉次 此他力のまゝの取あはさしとて極中物
も大く同前なり但此他力の昔蒲化の力
も刀指一行もいりちていりてはく
乃のりあしとて地とてはく
あのみりあしとてはく大略はれ
のわしとて地とてはく
わいのとてはく
うちあしとてはく

とて物も

備中。国住家。の作

一真次 此他の昔蒲化とてはく
らとてはく極中物とてはく
わしとてはく
のりも又及はく
有行もわしとてはく
あえおのりとてはく
極も大く同前なり但 為次 極次 真次
とてはく

此の多き一是に大なる地をいふなりをいふ
中物と云ふ一又眼と云ふはたゞいふなり
いれども但自然のなり



一正家 正廣 いま此が三原の云々の右
よわいといふ一竹の三原一なる大方同前
此は地といふもいふもいふもいふもいふも
今古三原の足元と又又大原がそすといふ
い両池よわいといふもいふもいふもいふも

竹もあえわいといふもいふもいふもいふも
少しといふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふもいふも
張のこれといふもいふもいふもいふも
い両池のこれといふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふもいふも



正家

一行平 紀新交 比他刀服指乃とくは大方京

比ちり出は極地とく板月あく、海やうの塔
まー又い大略のくれえいされく湯いー
そくああはと但服さーはす又入行も服
とよいー比の又と二寸とら焼さ
手比他のはおく又ひらりひらけ紙ひ
りまもさるも物ああーらりひのさけ
二寸あふ又い大らりひらとよも二寸八分れ
かり越ふ刀服さーたよなり比まらも物さ
るさとかりのくけ紙紙のさるさ、越さ
か大まらりささくありてすささけわさ

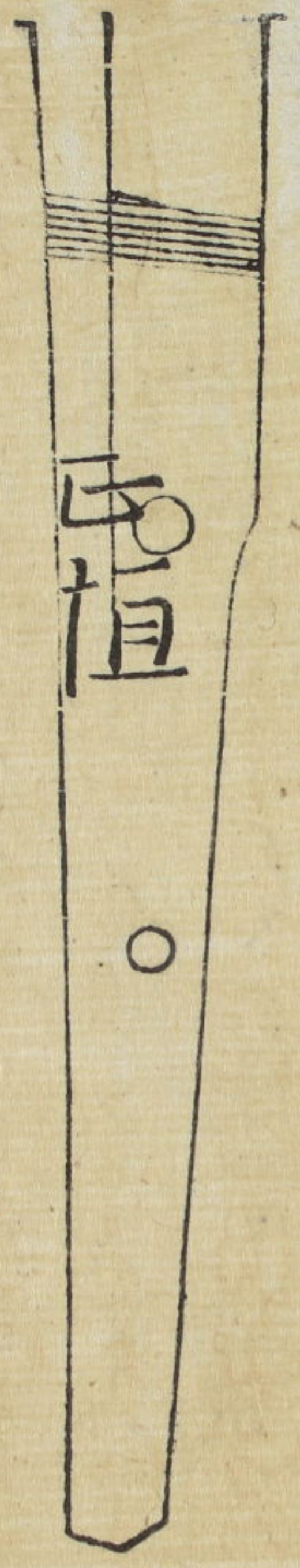
比あもも大略さるさるさるさるさ
まひらり枝さささささささの他乃
かりのと地さささささささささ
まれささ比他乃切物ささささささ
もささささかり物ささもれ他よまささ
さささささる物ささ

昔後凶行平

右のささささ大略さささ打服さささ
うささささささささささささ

もろこしに越月あくとんはつらもあつたの
 ともよこ色よりうりくき物も付大和行平
 のうり方のすうの中んれやとも又せん
 けらりの折ましも右の行平も同意あり
 組おれのみかそすくそをいへばよか
 ひ大和物といひり物あり

一 正恒 行平は他の方のすう右同意な
 地くも同板目すうりやいせやん地
 うすやうよまくすて地の目よめり
 より地ふあるといひりあつた
 といひり物より又いひりあつた
 といひりあつたといひりあつた
 といひりあつたといひりあつた



一 國吉 是れは地は来りあつた
 といひり地くもいひりあつた
 といひり京物は同じいり地くも
 といひり地くもいひりあつた
 といひり地くもいひりあつた
 といひり地くもいひりあつた
 といひり地くもいひりあつた

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a note, located at the top right of the page.

已上

右書者其家之集秘傳拾不之成
勝心數編三卷尤可為秘書者也

寬永二九年季冬初旬



